

○議 事 日 程

平成28年10月16日(火) 午後2時開会

○出 席 委 員 (10名)

委員長	眞 鍋 昇	委員
	山 口 行 一	委員
	大 森 康 二	委員
	南 口 哲 也	委員
	中 堀 恭 平	委員
	佐 竹 雅 幸	委員
	岩 佐 聖 二	委員
	長谷川 敦 子	委員
	大 谷 英理子	委員
	吉 岡 典 昭	委員

○事務局

企 画 財 政 部 部 長	工 藤 恵 司
企画財政部行財政管理監	今 西 麻 之
企 画 課 長	尾 崎 剛
企 画 課 企 画 係 長	鈴 木 将 巳
企 画 課	大 路 愛

~~~~~

◇ 午後2時00分 開会

○委員長 それでは、少し早いんですけども、平成28年度の第2回目の守口市まち・ひと・しごと創生委員会を開催させていただきたいと思います。

委員の皆さんにおかれましては、非常に御多用の中でお時間を頂戴してお集まりいただきましたこと、まことにありがとうございます。

議事に入ります前に、前回欠席の委員の方もいらっしゃいますので、繰り返しになるんですけども、議事録を作成するために、申しわけございませんが、発言前に手を挙げていただいて、お名前をおっしゃっていただく。あるいは私からお名前を申し上げて、発言いただきたい。

では、本日出席委員の数を事務局から報告させていただきたいと思います。

事務局お願いします。

○事務局 御報告申し上げます。本日の出席委員は定数13名中10名の御出席でございます。

以上でございます。

○委員長 ありがとうございます。ただいま事務局から報告がありましたように、本委員会の条例第5条第2項の規定に基づきまして、定足数に達しておりますので会議は成立したということで、以後進行させていただきたいと思います。

では、一番最初にですね、前回第1回の会議の議事録につきまして、資料がお手元にお配りかと思うんですが、第1回創生委員会の議事録ということで、よろしいでしょうか。

前回、配布したもののから若干の修正点があるかと思っておりますので、説明していただきたいと思っております。事務局お願いします。

事務局お願いします。

○事務局 それでは、お手元に事前に配布させていただいております、平成28年度第1回守口市まち・ひと・しごと創生委員会議事録案の新旧対照表及び事前に配布させていただいております、新議事録を御参考いただきたいと思います。

この新旧対照表につきましては、事前にメールにてお送りさせていただい

た議事録に、それぞれの皆様から御指摘いただいた点をまとめたものです。今回配布させていただきました会議録は、この新旧対照表に基づいて修正させていただいております。

以上でございます。

**○委員長** これにつきまして、何か特段御意見ございますか。

では、お手元の資料において修正させていただくということで、よろしいでしょうか。

ありがとうございます。特段修正はないということで、これで議事録を署名お願いしたいと思います。

前回、委員と委員に署名をお願いしておるんですけども、署名させていただいて決定するというので、手続させていただきたいと思います。よろしくをお願いします。

それでは、早速ですが、本日の議事について進めさせていただきたいと思います。お手元に資料を配布させていただいてます、資料1から始めます。

○資料に沿って、まずは事務局から説明を受け、それにつきまして各委員の方のお考え、御意見を交換させていただきたいというふうに思います。

事務局をお願いします。

**○事務局** それでは、お手元に事前に配布させていただいております、資料1、「守口市まち・ひと・しごと創生総合戦略の推進に向けた取組について」を御参照いただきたいと思います。

こちらの資料につきましては、前回第1回で皆さんに御議論いただきました、それぞれの点につきまして、まずは資料の左側、今回の守口市まち・ひと・しごと創生総合戦略における位置づけとしまして、基本目標その取組の基本的方向のどこに入っていきような御意見かというような分類をさせていただいております。その中でそれぞれ皆様から頂戴いたしました御意見から想定される取組ということで、右側一番右のところの1ページ目でしたら、婚活イベントの実施ということで書かせていただいております。

それでは、内容につきまして、御説明させていただきます。

まず、1ページ目ですが、「若い世代の結婚・妊娠・出産・子育ての希望をかなえる」という基本目標の中の、「結婚したいと思う若い世代の活動を

支援する」という総合戦略の位置づけの中で、皆様から御意見いただきましたものとして、「若い人同士が出会わないといけない」を始め、「婚活支援の取組をしっかりとベンチマークして、本当に喜ばれている、活用されてるような施策を、守口市にあった形を考えてはどうだ」という御意見も踏まえまして、守口市として婚活イベントの実施を検討するというようなことをさせていただいております。

ただし、その他の御意見として、やはり行政が積極的に婚活支援というような形でやっていくというのは、一定、配慮が必要なのではないかとというような御意見もございますので、そういった部分も考慮に入れながら、次年度以降の施策にいかせていただきたいと思いますと考えております。

○委員長 非常にたくさんの意見をいただいているので、皆さん、もう一度目を通していただいて、前回の御発言も含めまして、考えを再度、補填を含めて伺いたいと思います。

資料1のページに沿って、委員からいただいた御意見について、再度考えをお聞きします。特に御社との連携などが考えられると思いますので、もう少しこの御意見について肉づきができるのかなということ。

○委員 弊社において婚活支援ということは、会社独自ではやってません。ただ、前回御報告いただいて、先進事例等があるようであれば、しっかりそれをベンチマークして、本当に喜ばれるのか、喜ばれているのかどうかといったことを調査した上で、この守口にあった形でやればどうかなという意見で述べさせていただきましたので、その考えについては変わっておりません。

○委員長 婚活イベントの実施についてですが、やはり出会いのチャンスがあるということは重要なことなんでしょうかね。

職場によっては男性ばかりが集まるとか、女性ばかりになってるとか、そういうこともあるのかしれません。そういう意味では、会社でお勤めの方からみると、こういう婚活イベントについてはどうお考えでしょうか。

○委員 職場の中で、例えば独身男性、独身女性がおれば、何とか相手をとすることは話しの中であるかもしれませんが、具体的に何か行動にとかアクションについてということになると、やはり御本人の問題ということなので、ま

たそういったことを女性に言うのはセクハラの問題にもなりかねませんから、あまりそういうようなことは触れないようにはしてるかと思います。

○委員長　ほかの委員の方、この婚活イベントについて何か御意見とかお考えありますか。

先ほど、委員のおっしゃったように、最近はやはりパワハラだとかセクハラだとか、結構上司の方が、昔だったら気楽に、僕、知り合いでいいおにいちちゃんおるんだよ、みたいなことが言えたんですけど、今はなかなか非常に難しくなっていますね。そういう意味では逆にこういう市がいいのか、商工会のようなところがいいのか、ある程度パブリックなところが婚活イベントをするっていうことは、意外と意味があるのかもしれないね。

○委員　そうですね、先ほどおっしゃったように、セクハラ、パワハラというようなことになってくると、なかなか会社でそういうことをやろうと思うと難しい。それをこういう行政などパブリックなところでやっていただくとすると、そのニーズに応じた方々が集まるわけですから、それはそれで非常にいい支援になるのではないかと考えます。

○委員長　それでね、守口市にも人口が流入してくる、いいチャンスになるかもしれませんね。

○委員　出会いの場があって、結ばれて、子どもができてっていうようなことになってくると、まちも活性化していくし、人口も増えていくというようなことで、いい施策ではないかなと思います。しかし、ただ成功事例をちゃんとベンチマークして、守口のスタイルにあったようなやり方をするということは必要になるんじゃないかと思います。

○委員長　このあたりは、委員、前回いろいろと御提案があったかと思うんですけども、いかがでしょうか。

○委員　御提案といいますか、やはりあれから再度行政が、積極的に婚活イベントを行う意味があるのかなと、自分なりに調べたところ、やっぱりどうしても民間がやってることもありますし、1回、2回の婚活イベントで果たしてカップルが生まれるのかという点が疑問ですね。そんなに自分の経験からもそういうものではないと思います。

シナリオでおっしゃった婚活パーティーを開く、カップルができる、結婚

する、子どもが生まれる、守口に住んでもらえる、というのは非常にいいシナリオだと思います。ですが、やはりこの守口に結婚して住む、子育てするというと、やっぱりもっともっと大きな要素は、やはり就業率ではないでしょうか。この数字はちょっと目にとまりました。

平成22年守口は48.7%、平成31年に50%に目標掲げていらっしゃるんですけども、もう既に豊中市、大東市、大阪では平成22年にはもう50%を上回ってるんですよ。この数字が高くなってこない、守口市ではなかなか結婚しないし、出産、そして住んでいくっていうことはちょっと変わってこないのかなと。

それと、内閣府が2000年に調べたんですけど、2010年度ですね、やっぱり年収と結婚には差が、相関関係があるとされていますね。30代では年収300万未満の既婚率が9.3%、一方300から400万では年収ですね26.5%、600万以上の方は37.6%とそういう数字もありますので、ちょっと市が婚活パーティーを行うのはいかがなものかと、今も思っております。

**○委員長** なるほど、おっしゃるように、いわゆる民間という言い方はよろしくないと思うんですけども、そういったことも仕事にしているところもあるものだから、行政とか公的なものがどこまで踏み込むのかというのもまたバランスが難しいかと思ういます。また、出会って結婚されたその方たちが実際に守口市に住んでいただくということになると、やっぱり子育てとか、仕事はあるっていうのは第一なんだと思います。前回は委員からいろいろと子育て支援に関してで、事例も含めてお考えいただいているんですが、そのあたりもう少し踏み込んでご意見いかがでしょうか。

**○委員** 婚活についてではなくて、子育て支援についてでしょうか。

**○委員長** 子育て支援だけではなく不妊治療についてのご意見も含めて、前回いろいろと御提案いただいたかと理解しているんですが。

**○委員** 婚活について、皆さんがおっしゃった意見もあると思うんですけども、やっぱりちょっと若い人を得るためには、若い人に呼び込みをしていただいて、若い人の意見を取り入れた方が私はいいと思っています。なので、婚活って言うてしまうとちょっとかたいので、皆さん集まってこられないし、

失敗したらどうしようとかっていうこともあるので、もうちょっと緩やかな、茶話会みたいな感じから始めてはいかがでしょうか。市政のPRをしていただくとか共通の目標があったら、そこに自然と男女が集まってくるのではないかなというのは考えています。

○委員長　それと結婚はされるんだけど、医学的な意味で子どもがないとかいうんじゃないで、積極的に子どもはもたないというのも結構増えてるんですよね。経済的に子どもをもてないというケースもあるのかもしれないですね。

○委員　そこは昔と変わってきてると思うんです。「共働きをしないとローンを払えない」とか、「女性は家にいてはいけない」、「やっぱり働いて税金を納めないといけない」というような考え方もやっぱり多くなってきてますと、「やっぱり家から出ないといけないのではないかと思っている」と在宅のお母さんから話をよく聞きますし、保育所とか増やし過ぎるのもどうかなというふうに感じることもあります。

やっぱり子育てってすごい大事だと思いますんで、人任せにはいけないという部分もありますよね。だからといって、女の人が家にしばられるのかっていうと、それでは社会もよくなっていきませんので、バランスが大事だと思います。「北欧に学ぶ」ってこの前もちょっと意見をさせてもらいましたけれども、いいところをやっぱりいろんなところから取り入れて、できるだけ子育て支援という方向で、市もやっていただけたらなと思います。けれども、極端になり過ぎてはどれもだめじゃないかなと感じます。

○委員長　資料1の2ページ、前回事務局で取りまとめてくださってるんですけれども、例えば不妊治療をされてる方へのサポートについては、市など行政が一丸となってやるっていうことは、個人的にはいいことではないかと思えます。しかし、そのあたり女性の立場から見て、余計なおせっかいと思われるのか、それとももっといい意味で積極的にやってほしいと思われるのか、いかがでしょうか。

○委員　個人の問題になってくるので、私自身はその必要がなかったんです。今はこういう方が増えているというのは、ストレスの社会なのかなと思います。昔に比べたらやっぱり子どもさんができにくいついていう時代になってき

てるんだなというのも感じますし、実際やっぱり子どもほしくて病院に通っているのが当たり前のようになってますので、できればたとえ5万円でも、不妊治療について助成を出していただいたら、皆さん積極的に行かれる人も増えると思いますし、結構だと思います。

○委員長 僕は自分が仕事で関係してて、産科の先生にお話を伺うことがあ  
るんですけども、もちろん一概にはいえませんが、一部の産科の先生は、  
女性が小中学校で太るのは嫌だからといって、異常なバランスの悪いダイエ  
ットをしていることが結構見受けられるんだということをおっしゃってて、  
栄養状態が悪くて、結果的に骨盤の発達も悪くなると。だから帝王切開率が  
ものすごく上がっているんですよ。そのあたりは逆に、市がやるべきかど  
うかは検討が必要ですが、やっぱり学校でも、広い意味で保健になるんでし  
ょうけど、あるいは家庭科で教えるということも必要なのかもしれないね。

○委員 高齢出産についても身体的にも精神的にもリスクが高いということ  
を、性教育の中に日本は盛り込んでないことが多々あると思うので、やっぱ  
り若いときから性教育を行うべきだと思っています。

○委員長 そういった形で市が、副読本がもしあればそれを使うとか、何か  
準備するとかということは、一定必要性はあるのかなと思うんですけど、あ  
んまり効果はないんでしょうかね。難しい問題ですね。

また子どもの貧困とかも、もっと食べたいけども食べれないのか、本当に  
自分が痩せてスマートでいたいから食べてないのかとか、その辺はなかなか  
難しい問題にはなると思うんです。

○委員 御家庭で子どもに十分食べさせられてないという場合が多いですの  
でね。子ども食堂というのも今たくさんいろんなところでされてますし、食  
育って昔は、ふつうに家庭でやっていたと思うんですけど、今は学校でやっ  
てくださいというところが多くなっていると思うので。

○委員 事務局さんへの質問になるのかもしれないですけど、婚活イベント  
の実施が想定される取組の中に書かれています。これは議論する前提として、  
例えば行政でできるできないみたいな条件があったりとかですね、あるいは  
実際にやるよという話になったとしたら、民間にお願いするんでしょうか。  
そういうところまで想定しての議論をした方がいいのでしょうか。



○委員長 事務局から何か御説明いただけますか。

○事務局 先ほどの繰り返しで申しわけございませんが、今回のこの資料は、各御意見からの話での想定される取組として婚活イベントの実施と書かせていただいている部分でございます。ただし、他市での事例といたしましては、先ほどおっしゃっていただいた、婚活支援サービス提供されているような事業者さんと市町村が連携して、そういった婚活イベントを実施する。もしくは登録に対して市が補助金を出す、そういう管理登録制の民間での有料サービスに対してですね、補助金を出していくといったような事例もございます。

ただし、今の議論でもございましたとおり、では守口市のような都市部で他市もそれをやっておられるかということ、昨年からもお話がございましたとおり、婚活支援イベントにやはり積極的にかなり力を入れておられるのは、例えばいわゆる市内に農家の方が多い、つまり後継ぎ問題の延長線上で、やはり後継者、お子さんがおられないと事業の継続が難しいというような問題意識から、行政がそういった形で婚活支援をしておられる。もしくは、同じくいわゆる漁業が盛んな地域でも同じような形での事例がみられるという認識でございます。ですので、都市部でのいわゆる婚活に向けたあり方といたしましては、なかなか真正面から婚活支援というサービスを行政が提供していく、それこそ婚活支援パーティーを市が主催するというようなところに関しましては、なかなか都市部ではあんまり実施するところはないのかなとは思っております。

庁内の会議の中でも、やはり今おっしゃっていただいているように、これは賛否分かれてる部分がございますので、今回御意見頂戴しているという次第でございます。

以上でございます。

○委員長 ありがとうございます。委員、今の説明でよろしいでしょうか。

○委員 ありがとうございます。

○委員長 今も御説明にあったように、実際に具体的に市が何かを主催するというよりは、民間の事業者の方とも連携しながらサポートをしていくという、そういう理解でいいのかなと思いました。

それでは、まとめていただいた資料1の3ページあたりになるんですけれ

ども、これも以前委員から、子育てについての相談窓口があっちこっちでたらいまわしという言い方は極論なんですけれども、もう少し窓口を一本化して、そこでお母さん方とか若い方が相談しやすいような体制が望まれるんじゃないかという御提案があったと思うんですが、市もそういうことを対策としてあげてこられてるんですが、これについてどのようにお考えでしょうか。感想でもいいんですけど。

これは推測の推測で恐縮なんですけども、市もいろいろと課の縦割り行政的などころがあって、ここはこう相談にいったら、あっち行ってこっち行ってすることがしばしばあるかと思うんですけども、確かに若い方であんまりそういうことになれてないと、一度経験しちゃうともう行くの嫌だなとかそういうこともあるかとは思いますが、そうすると市の雰囲気というか、市役所は親切じゃないとそんなことがあるのかなとは思いますが、その辺はどうなんでしょう。

○委員 支援センターにいったときなんですけど、お母さんたちが保健センターとよく間違っ来られたりとか、役所にこうやって聞きに行ったけど、保育所のことは向こうって言われたとか、皆さん大体子育て支援センターにまず来られたりとかってことが多かったんです。けれど、多分そういう説明が若い方、引っ越ししてこられた方はわからないと思うので、まず役所の窓口でそれを教えてあげられるように、市民課はどこやとかっていう、そういう説明から入って、子どもさんがいはるところは、まず赤ちゃんできたら母子手帳をもらいにいってっていう、そういうふうな流れで教えてあげてもいいのになって感じました。

できるだけ相談窓口は1本にされる方が、保健師さんもやっぱり信頼関係とかおけると思いますし、また違う担当の方が変わって、今日行ったら違う方だと、また一から話さないといけないし、なかなか話しづらいこととかもあると思います。そういうのをちょっと保健センターと支援センターといろんなところで連携できるような、窓口一本化というのを目指してほしいと思ったんです。

○委員長 最近、行政ではないんですけど、ホテルのコンシェルジュのまねをして、マンションを買いたいといってどこか相談にいくと、一人の方がず

っと連れていってくださって、公的な手続までありますよね、そんなんまで全部やってくれるから、ぐいぐいぐいってやってくれて非常に楽なんだというように話を、東京の方で聞いたことあるんですけども、そんなイメージなんですかね。行政としては、そこまでなかなか人を配置してまでできないかもしれないけれども。確かに初めての方は母子手帳のところでつまずき始めるのかもしれないですね。

これは多分、昔はよかったということはないんでしょうけど、昔だったら、お母ちゃんがいたとか、おばちゃんがいたとか、そんなところで教えてくれてたんでしょうけど、それが全くたった一人でやるということで、そういうことがあるのかもしれないですね。

○委員　今委員長がおっしゃったような窓口が一つですよということであれば、例えばなんですけども、支援センターなりどこかが、ここにまずきてくださいとメッセージ発信する。そうしたらとりあえず皆そこにやってきて、そこで最初からある程度のところまでの支援を受けるという形にするようなイメージと、要はワンストップとはいいいながらも、そこからまずあなた次ここに行けばいいですよというというスタートだけというところとかもあると思うんですよ。例えば北欧とかですね、進んでいるところはどのような形でサポートされているのかというのを教えていただくと、ありがたいなと思うんですけども。

○委員　テレビとインターネットをちょっと見たんですけど、向こうはネウボラって言って子育てに、この人にこの保健師さんみたいな資格をもった人が一人つくんですよ。出産するとわかった時点で、お母さんがその窓口に行くとネウボラさん紹介してもらって、ずっと子育て、小学校ぐらいまで多分みてくれるし、兄弟さんも全部みてくれると思うんですけど、健康状態とかのチェックも全部、家族ぐるみでやってくださるっていうのを聞きました。だから割と子どもさんも乳母さんみたいになるんでしょうけど、かわりが長いので、すごく信頼関係ができるっていう制度があるんですけども。

○委員　便利ですね。

○委員　多分、担当が変わられてもきちっと引き継ぎができるシステムになってるんだと思うんです。やっぱり何かの事情で担当が変わることもあると

思いますけど、きっちりその辺のサポートの力があるようなので、ほとんどの人が共働きで、女性は9割以上多分働いておられるとおっしゃってたんで。ただ就業時間も短いそうです。4時とか3時ぐらいまでしか女の人は働かないでいいという、そういった規則的なもので。お迎えの時間もそれぐらいだと聞いておりますんで。

○委員 その担当してくださる方っていうのは、何か特別な資格をもっておられる方なんですか。

○委員 そうですね。やはり資格をもっておられないと、そういう世話もできないですし。

○委員 そうすると、窓口を一元化するとかいうことではないんですね。

○委員 その人自身が世話してくださるんですけど、まず生まれたときに育児用品を全部必要なものを、産着とかオムツとかっていうのを家に届けてくださるところからフィンランドでは始まるそうなんですけど、国を挙げて育児と出産をお祝いしようという形から始まるんです。それが普通になってるものなんですよ。子育てを社会でやろうっていう。

○委員 そういう役割を担う人っていうのは、例えば守口市だとどっかの組織とかいうのがあるんですか。

○委員 今だったら保健センターの保健師さんが、赤ちゃんができたりっておうちに行かれたりとか、赤ちゃん事業とかされてると思います。

○委員 そういう役割を担う人がたくさんいるともっと動きやすいとかあるんでしょうか。フィンランドではどれぐらい人数がいらっしやって、どういう体制でやっているんでしょうか。

○委員 フィンランドと日本とは人数的なことも違いがあるっていいですね。

○委員 保育士さんは不足してますし。

○委員 保健師さんもそうだと思うんですけど、ちょっとその辺のシステムを広げることができたら、大分違うだろうと思いますけれども。

○委員長 そこまでで体制が整ってきたら、これ以上こないで頂戴っていうくらい守口に人が集まってくるかもしれませんね。

○委員 そうですね、フィンランドの支援制度と同じぐらい支援ができると、守口はいいところだよってことになると思うんですけど。

○委員長 3ページのいわゆる同居世帯も含めた住宅のことについて、若い世代の方が住みやすいような環境をつくろうということで、委員が前回もいろいろと積極的に考え伺ったんですけど、いかがでしょうか。

○委員 やっぱり住民の定着化というところの観点を、前も少しお話をしましたけれども、市の調査の中で、やはり30代40代の子育て層が、守口市から離れていってしまうというような統計があったと思います。そうした世代も定着化させるためには、場合によったら家賃補助であるとかというような助成ができないのか。やり方として、こられたらすぐというわけでもなくて、1年以上定着されたらとか、そういうような方法はあるかと思いますがけれども、住まいを定める選択の中で、ターゲットを絞って助成をしていくということはですね、さっき申し上げましたような現状の分析の中から、若い層を取り込むには有効な手段ではないのかというふうに思います。

○委員長 委員はいかがですか。

○委員 子どもができるまでは便利ということで、住んでる人たちがそれなりにいるということなので、子どもができたときに出ていくのをとめるということを見ると、市内での移住、市内での家を買うとかそういったところの助成制度というものがあれば、子どもができたら出ていくというところは、もしかして少しはとめられるのではないかなと思います。

○委員長 昨年、事務局がまとめていただいた資料を見ると、割合单身の方はやっぱり交通の便がいいということで、結構住んでおられて、結婚してそこもまだ住んでる。子どもができちゃうと結構出ちゃうという傾向が確かにあったと思いますよね。そういうことでいうと、ひょっとしたら婚活の部分とか、実は必要なくて、一番力を入れるのは定着していただくということで、先ほどおっしゃったように、例えば1年間とか、あるいは2年ぐらい住むとサポートしますとか、そういうのも一つかもしれないですね。

結構田舎なんて、都会からIターンで住まれた方が、2年以上住むんだったらこの家あげちゃうよとかそういうのありますよね。

○委員 市街地の活性化でも、空き店舗に入った場合には、そこで1年事業をやったりとか、2年やったりしたらその後助成をしましょうという例もありましてですね、その1年、2年住んでみたらっていう一定限の期間をおけ

ば、その土地における覚悟、今後も住んでいただけるというような兆しになるのではないかなと思います。すぐ来られたら歓迎です、住んでいたら、農村なんかであるように古い民家を提供しましょうというような話は、都会地ではですね、住んでみて環境がどうもあれだなと思ったらすぐに移ってしまうということもあるかもしれません。だから、一定限の定住を条件に、そのファミリー層みたいなところを食いとめることができれば、さらに呼び込むことができれば、効果はあるんじゃないかなというふうに思います。

○委員長 委員も委員もずっとここに住まれているんで、その辺の感覚は逆にわかりにくいのかもかもしれませんけれども、逆にずっと住まれている方目から見て、そういったよそ者にもサポートするという考えはいかがでしょう。

意外と田舎なんかでは、ずっといる人が、外から来た人にお金をあげるのは不公平であるという意見があるらしいんですね。逆にずっと住まれている方からみて、市のようなパブリックなものがサポートするという考え方は、不愉快だとかそういうことはないですか。

○委員 別にそれは、価値あるお金であれば、全然結構です。というのはそれより、いくらかわかりませんが、補助をして住んでいただいて、そして人口の構成比の割合が非常にバランスよく、超高齢化となっていくのではなくて、若い方がどんどん住んで活気ある町になっていけば、回りまわって守口市の住民にとっていいことだと思いますので、そういう補助は決して反対ではないです。それであれば、損したという気分はありません。

ただ、補助を出して、果たしてそこに住むかという、やはりその後の暮らしやすさを考えると思うんです。30代、40代、例えば何度もこの会議でお話させてもらってますけれども、待機児童の問題だとか、幼稚園、小学校、中学校、公立の教育の内容が、やっぱりここで我が子を通わせていきたいと思える内容なのか、そして思いっきりボール投げでもできる公園があるのか、緑が多い町なのかなど。あとは治安ですよ。そういうあたりをしつかりとトータルで考えて、この町いいな、住みたいなど、そこに補助があればなおいいなとなると思うんです。

確かに1,000万円補助を出しますからっていうと、きっと多く来られると思いますよ。しかし現実そこまで出せないですよ。せいぜい何十万円

かじゃないですかね。何十万円も出せないですよ。

やはり安定した雇用の創出というのが、本当にこの町で大事かなと思います。またもちろん個人個人、一人一人がそういうふうにしっかり働くぞという意識の改革といいますか、そのあたりが伴ってこない、与えるだけではなかなか持続するようなものにはならないなと思います。

以上です。

○委員長 委員はいかがでしょうか。

○委員 私も定住ということで条件つきでしたら、若い世代により助成してあげたらいいと思ってます。けれど、ただ吹田市みたいに、子どもに対する医療費出しますというふうに発表してしまって、今度は待機児童400人待ちというふうなこともテレビでやってました。お金を出すっていうと、若い人も多分殺到してくるので、その受け入れっていうのを守口ができるのかなって思ったときに、きちっと準備をした上で、慎重にやっていただいた方が大いにいいのかなっていうふうに感じてます。

○委員長 委員が繰り返し、仕事がないことには話にならないとおっしゃっていましたが、委員は専門家としていかがなんでしょう。

○委員 仕事があればいいというものでもなくて、実は30代、40代の非正規社員が一番問題になって、職があってもいつ契約が切れるかわからないとか、派遣で不安定な働き方とか、これがまず一番課題だと思いますね。やっぱり今そういう同一労働・同一賃金なんていうことも政府が言ってますけど、なかなかやっぱりどこまでを同一労働っていうのかっていうふうなこともあるので、非正規の方の収入を正規の社員並にっていうのも、ちょっと時間のかかる課題じゃないかなと思います。

確かに窓口とかでもやっぱり、結婚とか子育てっていう以前に自分の生活の基盤を整えるということの方が、大事っていう方もやはりたくさん、そういう人もおります。それが結構若年、若い方にもおりますので、そこら辺が結婚とか出産とかの一つの弊害といいますか、難しい要素の一つにはなっているかなと。私前回欠席させていただいて、この辺の議論を聞かせていただけてないんですけども、官っていう立場から、実はほかの市の地方創生の委員にも入ってるんですけども、ほぼ同じなんです、話していただけてる

内容、取組内容も、ネオボラの話もほかの市でも実は出てまして、取り組む  
っていう市もお聞きしているところなんです。何かこう本当に、守口はこれだ  
っていう、守口に魅力を感じて住んでもらおう、ここに家を買おうと思って  
もらえる何かをもうちょっと考えていかないと、いけないと思います。ちょ  
っと難しいんですけど、どこもそこら辺は悩んではるところなんですけども。  
ちょっと思ってたんですけど、確かにターゲット、一つのポイントを絞って  
もいいのかなと思うんですけどもね。子育て世代なら、子育て出産から、例  
えば小学生ぐらいまでの子どもさんをもつ家庭をターゲットにして何かをば  
んとやるとか。ちょっと今お話伺ってて、その前の婚活からやり出すと本当  
に幅が広くなり過ぎて、全体が薄くなってしまいうような気もしたので、こ  
っていうターゲットを重点的にするっていうのも一つかなって感じているん  
ですけれども。

○委員長 意外と実は、守口はいろいろと若い方と子どもさんをサポートし  
てるんだと。でもサポートしてるってことが意外とちゃんと伝わってるのか  
との疑問があるんじゃないか、という意見もあったんですね。市のホームペ  
ージとか見ると書いてるんだっていうけども、ごらんになったことありませ  
か。もう総花的にいっぱい項目があって、それはそれで必要なんですけど、  
どこを見たら書いてるんだろうというのが確かにあるんですよ。

それで、4ページの最後にあったFMキー局とか、そんな耳を通したよう  
な情報発信も必要ではないかとかいうような意見も出てきたと思うんですけ  
ども、委員その辺はどう思われますか。FMが一番いいっていうのが。

○委員 弊社が一番いいかどうかはまた問題にしまして、ちょっと今までの  
話の中で、感じたことなんですけども、ワンストップで子育て支援とおっし  
ゃってるのは、私も親の介護をしてたりとかしてるんですけど、地域包括支  
援センターみたいなものの子育てバージョンというか、そういうものだと思  
うんです。ケースワーカーさんとかそういう方がついていただいて、支援を  
受けるみたいなイメージだと思うんですけども、そういう他市でどこまで  
そういうことが進んでるかっていうのはわからないですけども、そういう  
のがしっかりサポートできますということをアピールしていくというのは重  
要だなと思いますし、そういう制度をつくってアピールしてほしいなとは思



います。

助成の話もそうなんですけども、全体的に予算枠というのがどれくらいあるかわからないんですけども、大阪市だと新婚さんで1万5,000円の家賃補助してたって、2万円の家賃補助あるみたいですけど、それだけできるぐらいの予算が果たして守口市にあるのかどうかというところもあるでしょうし、これが数千円という枠に収まってしまったら、あんまりインパクトもないですし、魅力としては非常に弱いものになってしまう。逆に手間暇考えるとどうなのかなと思います。

婚活に関してなんですけど、気軽にできるようなそういうおっしゃってたような若い人の出会いの場をふやすようないろんな施策、広報PRとかにしてもちょっとしたことで若い人たちの、逆に手を煩わせるようなイベントの手伝いなんかということとという案もあるとは思いますが、なかなか市民まつりなんかでも、新しく若い人が来ていただけるというケースがやっぱりなかなか少ないみたいで、やるとするならもう少し熟慮が必要なんかなというふうに思います。

婚活そのもののイベントに関しても、やはり今までいろんなところがされてるんですけども、なかなか定着してない。街コンみたなのもJCさんがやられたりとかするんですけども、過去にやられた経緯もあるんですけども、結構苦労されて人集めもされたというところもあって、なかなか定着しない。やはりおっしゃられたように、来たはいいけど見つけられない、結婚できない人たち、積極的で結婚できないっていう人もいてるかもしれないですけども、どうしても消極的な方が多い。結婚したいけどなかなか出ていけないとか、婚活イベント行ったけど声をかけれないといった人がきっと多いんだろうと思うんです。ですので、なかなか婚活イベントって、やって悪くはないかもわからないですけど、定着は難しいのかなというふうには思ったりもします。

アピールという点については、いろいろな手法があると思うんですけども、ネット動画を活用する方法だとか、市のイメージPRビデオも市民の皆さんから台本を募集してやってみるとか、そういうこともできるかもしれないですし、一般の皆さんの創作意欲みたいなのをうまく活用したやり方がで

できれば、多少話題にもなりますし、面白味も出てくるのかもしれないというふうには思います。

媒体がいろいろありますので、効果的に使える媒体を選んでやっていくのがいいのかなと思います。

**○委員長** 確かにどういうターゲットを絞るかっていうのは一つ重要なんでしょうし、あんまりターゲットを絞り過ぎると非常にマニアックな世界に入ってしまうですね。まあ、それはそれでいいんだけどということになるかもしれないんですけど。

先日ちょっと知り合いの方に誘っていただいて、大阪の梅田のちょっと横のあたりに、中崎町といましたっけ、あのあたりはマニアックな人がいっぱい住まれてて、古い家でアトリエつくったりとかして、僕は個人的に結構好きなんですけど、えらいマニアックな世界だなと思ったんです。けれど、あれはあれで古い、ちょっと梅田から外れた寂れた感じだった町がまた活性化してる。そうするとそういうのが、湯水になって近くの高層マンションなんかも若い世代が住んでると、そういうことを耳にしたりしました。なので、意外とそういうちょっと特徴のあることとか、なかなか行政がやるっていうてもあんまりに冒険過ぎてよくないかも、なかなか反対の意見が出るかもしれないんですけど、そういうもっと実際に守口の若い方から声が出て盛り上がってそういうのあるところをサポートしたら理想なんかなと思うんですけども、なかなか机の上で話すようには現実難しいのかもしれないけどね。

そういう意味で、最近の若い方って、例えば昔の僕らのLPとか聞いたりとか、意外とアナログ的なんですよね。ものすごく若い人になるんかもしれないですけど、デジタルが嫌だとかそんな方がいるんで。意外と守口は昔の東海道五十七次ぐらいを売り出したら、マニアックな人が集まるかもしれないので、いいんじゃないかなという気もするんですけど、いかがでしょうか。

**○委員** 東海道五十七次に関しては、今も一生懸命PRされてて、うちの局なんかにも毎週のように担当の方っていうたらいいんですかね、委員をされてる方々が来ていただいてお話いただけてますし、一生懸命活動されてるなというふうに思ってます。いろんな全国的な集まりにも出かけになられたり

とかされてますので、そういうものが少しずつ実りつつあるのかなというふうには思ってます。

さっきのアートによるまちおこしみたいなケースというのは、いろんなところでされてますけれども、今回こういうふうに通口市の市役所も新しくなりますので、ギャラリーとしてロビーなんかをもっと積極的に活用してもらったら。若い人はそういう情報発信であるとか、活用の助けであるとかそういうものをしていくっていうのは、お金をかけずにそういう意欲を高めていくような施策になるのかもしれないですね。

○委員長　ほかに、資料1にかかわるようなことで、何か御意見ありますでしょうか。

○委員　今までの議論の総括的な意見というような形になるんですが、やはりこの通口市の人口を増やすというものと、定住させるというものに関しては、取組施策というのが違ってくると思います。人口を増やすということになれば、例えば通口市の市民の方の家族を増やす、新しい命を誕生させるだとか、家族をふやす、また通口市以外の方を受け入れる、招き入れる、そういうような施策。それが先ほど出た婚活イベントであったり子育て支援であったり、不妊支援であったりというようなことになるんじゃないかと考えます。

一方定住させるということになると、住んで安心、暮らして安心、豊かさを感じるというような施策であったり、先ほど通口の魅力というお話ができましたけども、通口以外の人に通口の魅力は何ですかと聞いてもなかなか答えられませんよね。ところが通口市民の方に、あなたの住んでる通口の魅力は何ですかと聞いたときに、果たしてどういうふうに答えていただけるのか、もし感じていないとか、答えられないということであれば、そこが問題じゃないかなと思います。もっと通口市のことを知ろうということで、地域を知るとまちづくりがおもしろいみたいな考え方で、地域をもっと知る手段を考えていく。例えばこれだけ情報化社会ですから、ネット環境を使って問いかけてみるとか、市民の方の意見をいただくとか、例えばこういう活性化、まちづくりみたいな提案をいただいて、それに懸賞金をつけるとか、何かそんなイベントを考えてみてはどうかと思います。

- 委員長　ありがとうございます。ほかに御意見とかございませんか。
- 委員　よく不動産の雑誌とかで住みたい町ランキングとかっていうと、交通の便がいいよというのは必須になってる。上位の町というのは大概そうなんですけど、そのほかにおしゃれとか洗練されたとかがランクの中に入ってます。大日地域の周辺とかでは、密集市街地がまだ残ってるっていうことだと思うんですけども、住みかえをしていくにあたって、住みかえの代替地があんまりないという感じがします。イオンさんが何か再開発するから、動きそうだとかそんなような話とかはないんですか。
- 委員　イオンさんはあくまで流通ディベロッパーで、広義のまちづくりという意味では、御自身をこういうポジションにおくってというのは持っておられるんですが、直接密集市街地の整備を行うという観点は多分お持ちではないと思います。
- 委員　イオンさんの中で大きくしたいという流れの中で、どこか買ってもらってそのところに、ちょっと今の駐車場の場所がよくないのではないかという議論の中で、建てかえ用地とか提供できるといいんじゃないかなとかですね、そのような話なんですけど、なかなか難しいかもしれませんね。
- 委員　密集市街地ではたいていは権利関係が複雑になっていまして、多分イオンさんのような施設というのは、結構大きな土地を必要とする場合が多いので、ちょっと専門的な言葉になるんですけど、市街化調整区域といって基本的には市街化されてないところが、何らかのインフラの整備によって土地利用の転換が行われるっていうときや、工場が閉鎖された後などに建設されることが多いです。密集市街地のところで、確かにそこはそこでいろんな課題が、建てかえていくべきだとか、町を更新すべきだという課題があったとしても、それを解決しながらというのはかなり厳しいでしょうね。
- 委員長　確かにおっしゃるように、もともと広い何か施設があって、そこがなくなって、そういうところに何とかモールとか何とかアウトレットとかできるという形が多いですよ。
- 委員　最近四條畷にイオンモールつくられましたね。
- ちょっと話は戻りますけれども、先ほど委員がおっしゃったように、やっぱり何かに特化して、いろんな施策をしていくというのは非常に大事なこ

とだと思えます。他の市町村も同じことをおっしゃってると思うんですが、やはり子育て世帯の定住化が第一の課題だと思います。

以前、この場でも申し上げさせていただきましたけども、守口市さんの場合は、先ほどおしゃれ感がないとかいう話もあったかもしれませんが、一番トップにくる交通の利便性とかは、他市さんと比べて優位性を持っているわけです。やはり子育て支援の助成の関係であるとか、住宅取得の促進であるとか、今後そこに財の投入はしやすいかなという気はするんですね。

実際には先ほど委員がおっしゃったように、風紀であるとか、教育であるとか、魅力の発信であるとか、そういうのも当然大事ではあるんですが、例えば1年後にこれをしましようというのはなかなかできないんで、それは長期的な課題ということです。ずっと取り組みつつ、短期的にやる施策とどう組み合わせを進めていくかということなのかなと思いますし、まずはやはり子育て世代に定住していただくことによって、当然住民税であるとか固定資産税とかの税収の上がる部分もあるわけですから、そこがうまくスパイラルで進んでいけばいいのかなというふうには思いますけどね。

**○委員長** どうもありがとうございました。

どうも非常に貴重でポジティブな御意見をたくさんいただいてありがとうございます。この今回いただきました意見を取りまとめて、この議論を深めまして、その取組の検討につきましては、守口市の事務方に検討していただいて、次につなげていただきたいというふうに思います。ぜひよろしく願います。

それでは、次に資料の2になるんですけども、事前に配布させていただきました資料で、先進事例について事務局より説明していただきたいと思えます。

事務局お願いします。

**○事務局** それでは、お手元に配布させていただいております資料2の「守口市まち・ひと・しごと創生総合戦略の推進に向けた取組に係る先進事例について」を御参照いただきたいと思います。

こちらの資料につきましては、先ほどの資料に少し似ているんですけども、守口市まち・ひと・しごと創生総合戦略における位置づけとしまして、

それぞれ目標、方向、取組ということで、現在、市の庁内での検討を進めております取組の中で、それらの他市の先進事例を御紹介させていただきます。何かといいますと、次年度以降守口市においても実際にこの計画の実施段階におけるそれぞれ、今回ですと、具体的な取組として住宅供給の促進、こういったものをどうしていったらいいのか、もしくは情報提供相談こういったものをどうしていったらいいのか、食育の充実について魅力的な教育を推進していくという中でどうしていったらいいのか、こういった議論を庁内でも検討を進めていっておりますので、今回の創生委員会でも、そういった御意見を頂戴できればということで、それぞれの先進事例ということで他市の事例を御紹介させていただいております。

以上でございます。

○委員長 どうもありがとうございます。この資料に基づきまして、こういった先進事例ですね、何か守口市でも取り込めないかとか、モノマネになっちゃわないかということもあるかと思うんですけども、委員の先生方のお考えを教えてくださいと思います。

委員、特に金融関係とかローンとかそのあたりを含めて、他の先進事例で何かコメントございますでしょうか。

○委員 ちょっと考えさせてください。

○委員長 委員いかがでしょうか。

○委員 先ほどもちょっと申し上げましたが、賃貸住宅につきましては、確かにいいところ取りをして結局市外に転出するということが多いですので、ちょっとハードルは課した方がいいのかなと思います。例えば先ほどお話が出てましたように、補助を出すのであれば4年目から、5年目からとか。賃貸住宅よりは住宅の取得にやっぱり力を置いた方がいいのかなと思います。やはりどこに住んでも満足することばかりではありませんし、どうしても不満な部分も出てくると思うんです。持ち家をもってる方は、賃貸の方と違って移りにくいと思いますし、財源も豊富にあるわけじゃないですから、やっぱり住宅の取得に重きをおいた方がいいのかというふうには、ここの表の中の一番上の部分では思いました。

○委員長 そうですよね、財布はものすごく大きいんだったら、いろんなこ

とで支出できるんでしょうけども、結構厳しい財布の中では確かにポイントを決めた方がより有効であると。おっしゃるとおりですね。

○委員 住宅をあえて取得されていない方もおられるわけですから、その人を完全に排除するという考えじゃないのであれば、やはりその場合は一定のハードルはあるべきだと。

○委員長 住宅を取得した方については、その時点からでもいいんでしょうけども、先ほど委員からも御提案があったように、賃貸とかの場合は2年ぐらいがいいのかちょっとわからないですけども、ある程度住んでもらってからサポートを考えるというのも一つの考え方でしょうね。

あるいは、さらには子育て世帯は重点的にサポートするというようなことも、子どもがいない人からまた文句がでるかもしれませんね。なかなかフォーカスをしぼるっていうのは難しい面があるかとは思いますが。

それと、先ほども御意見があったように、子育て世帯の定住を促進するのはいいんだけど、だったら子どもの、学校であるとか保育園であるとか、そういう子育てに関するものがちゃんとしてるのかっていうことも、また総合的に問われることになって、住む家の資金的なサポートだけじゃ片づかないのかもしれないですね。これもやはり財布の大きさによって、ものすごくお金があるんだったらあっちもこっちもってことにはなるんでしょうけど、順番から言えば難しいんでしょうね。

最近、私が今お世話になってる大学もそうですけど、大学も社会貢献しないといけないよとお尻を叩かれてやってるようなところもあるんですが、実際は主に地元の方が学生として来てる場合が多いんですけども、そういうところとできるだけ金を使わずに、大学の立場からいうたらお金くれた方がありがたいですけど、何か子どもの支援にかかわるようなことをやると、それはそれで地元として盛り上がる可能性も高いかなと思うんですけどもね。このあたりも私立の大学とか、近隣の方が大学の学生として来てる場合がほとんどだと思うんですよ。遠く離れたところから来てるっていうケースは非常に少ないもんですから。だから私の話になるんですけど、この近くの土居商店街に商店街の活性化にも学生さんが行って、子どものときからそこでたこ焼き食ってたとか、そんな学生だらけで結構喜んでるんですよ。毎日

が村祭りだといって、そういうやり方も、お互いにウィンウィンの形でやるっていうことも、一つの町の雰囲気をよくするという意味では意味があるかもしれませんね。若い方がいきいきとしてるっていうのは重要かもしれません。

それと学生さんの話聞いてると、やっぱりFM放送とか結構ラジオを聞いてるんですね。地元の情報というのはそういうものから手にしてて、逆にテレビとか新聞は見てないんですね。小さいミニコミっていうんですか、マスコミじゃなくて、そういったところの話をよく知ってるというのはなんか僕らの世代からいったら、へえって思うんですけど。

○委員　　ちょっと脱線するんですけど、委員長の大学と守口市さんとはコラボしてるっていうことはあたりするんですか。

○委員長　　そうですね、先ほどお話した、例えば商店街の活性化のプロジェクトとかはお互いにいろいろと。

○委員　　学生さんの研究対象になりますよね。

○委員長　　研究にもなるわけなんですけどね。

京阪百貨店さんなんかでもお弁当の方が。

○委員　　京阪百貨店とコラボしていただいていますね。

○委員長　　栄養士のコースがある関係ではありますけど。学生さんとかはありがたいことなんでしょう。ただ迷惑をかけてるだけかもしれないですけど。

○委員　　いえ、そんなことはないと思いますけれども。

○委員長　　だから、これも余談になっちゃうんですけど、保育士のコースもあるんですけど、結構保育士の一応資格は取るんだけど、保育士にならない学生さんも結構あるんですね。これが、どうしてって聞くんですけども、結構やっぱり彼女たちが言うのは、朝から晩まで夜遅くまでやる割にはお金が少ないとか、責任がすごく問われるとかですね。そんなんでもせっかく、高校生のときは、赤ちゃんも子ども好きだし保育士になりたいって言うんだけど、いつの間にかその思いが薄れてきて、いわゆる一般企業に就職するようなケースも結構多かったです。それはそれでちょっと残念だなんて思ったりするんですけどね。現場では逆に保育士さんがちょっと足りないということで、その辺も資格をもってる人と、施設とのギャップをなくして



いくとかが必要だと思うですよ。単純に給料上げたらいいいんでしょうけどね。

○委員 保育士さん方は大変ですよ。モンスターペアレントのような話は実際に何度か聞いたことがありますしね。

○委員長 そのモンスターペアレントというんじゃないで、お母さん方は、自分の子どもになるとちょっと理性を失うんでしょうね。これも仕方がないということで、ちょっと熱が出たとか、子どもってやっぱりそういうことってよくあるんですよ、普通に。病気が子ども同士お互いに移って、それで丈夫になっていくんだけど、保育士さんは熱を出したことを責められて、それがショックでやめちゃったとかね、そんなのがやっぱり現実によくあるみたいなんでね。真面目な方ほどだめなんですよ。真面目な方がそういうことを言われると、保育園で病気を移されて、どうしてくれるのって言われるとそれで悩んじゃったりということがよくあったりして。難しい問題ですけども。

○委員 もっと大学と行政がコラボしていろんな情報を発信できたらいいですよ。

○委員長 子育ての情報提供とか相談って、先ほど窓口を1つにして頂戴というような話とダブるかと思うんですけども、委員は、また重複するようで恐縮なんですけど、そのあたりいかがでしょう。

○委員 守口市のこの子育てアプリって現在やってるんですかね、事務局の方に聞きたいんですけど。

○委員長 事務局。

○事務局 現在守口市において、市民の方向けに配布分としての子育てのアプリというのは現在ございません。ホームページで、例えば情報の掲載等がございますけれども、それをアプリという形でダウンロードしてここで掲載している、例えばそれぞれの市内の入園案内の情報であったり、もしくは救急相談のQ&Aが載ってあったりとかというような情報の部分は今のところありません。

以上でございます。

○委員長 ちょっとその下にですね、子育てのノウハウについて民間事業者

と連携して情報提供となっている。この民間事業者もし具体的にわかれば教えていただけますか。

事務局。

○事務局　こちら具体的に申し上げますと、いずれも他市の情報で申し上げるところの裾野市さんの事例を書かせていただいているんですけども、直接ヒアリング等はできていないです。けれども、こちらはアプリでダウンロードいただきますと、その子育てのノウハウの情報を連携する企業とのリンクを貼ってありまして、そちらの方に飛んでいくというような形のアプリだと、把握しております。

○委員長　委員よろしいでしょうか。

○委員　前に、子育て支援センターの方で配布した資料で子育てマップというのがあったんですけど、あれも守口市結構横に広いんですけど、東と西と中央とみたいな別け方で住んでおられる地域のここに幼稚園とか保育園とか病院があるよっという簡単な地図が載ったものです。ですが、マップをつかったあとに統合とかこの園なくなりましたっていうのがあって、結構たくさん修正とかして上から書きかえたりするんですけど、なかなか紙面にしてしまうと、変更するときに大変だと思いますんで、印刷物ですので、ちょっと難しいかなと感じました。

○委員　これから子育てする方はスマホやパソコンの取扱いに慣れてはるでしょうから、これらの媒体からの情報発信を充実すべきなのは間違いないでしょうね。それだとアップデートも当然しやすいですし。

事務局にお伺いする話になると思うのですが、先ほどから出てます子育て支援の関係の窓口の一本化という意味で、守口市さんでは、子どもができた際に今後の各種手続き等について、初めに総括して伝えることができるような窓口はあるのでしょうか。

○委員長　事務局の方から何かお答えできますか。

○事務局　どの順序かというところはあると思うんですけども、先ほどから御議論出て役所として反省すべき点多々あるんですけども、縦割りとまた横割りみたいな考え方がありまして、一番最初生まれたら新生児訪問、先ほど委員の方からありましたように、うちの保健師が希望者に対して保健指導

を行うと、乳幼児の相談なんかを、あとはこのあたりがいろいろ縦割りで保健的な、保健師ですのでそういう専門的な分野での係わり方をしていくと。一方で、またその保健師が4カ月健診であるとか、法で決められている1歳6カ月健診、2歳歯科検診、3歳6カ月健診、いろいろ年齢によってかかわるところが出てきます。そのあと、また横割りなんですけども、その健診を済んでしまうと、今5歳もあるのかな、5歳児健診というのも今一部導入はしてるんですけども、その一定の健診を過ぎてしまいますと、今度もう小学校に入ってしまうので、そこからもう保健指導的なかわりってというのはほとんどないと思うんですね。そうなるあとは子育て相談であるとか、福祉的な分野、例えば虐待であるとか、そういったところのセクションが役所的にもかわっていってしまうと。

一番最初に一本化っていうのが目的をどうするのかっていうところについては、まず最初にかかわらせていただくのは、保健部分であると思います。そこでも一定の医療助成の説明であれ、問い合わせがございましたら受け答えはできるような状況にはなってると思うんですけども、トータルコーディネートといいますか、そういった制度というのはなかなか難しい現状でございます。

○委員長 どうもありがとうございます。

○委員 各部署にまたがる情報を集約するのは難しいと思うんですが、はじめにワンストップのいろんな情報が整理されて聞けると安心するところがあるかなと思います。

○委員長 他にはもう御意見ありませんでしょうか。

どうもありがとうございます。非常に資料1に係わって、子育て資料2に係わっても含めまして、活発な御意見をいただきましてありがとうございました。これらの議論を踏まえまして、守口市で実際にどういうように取り組んでいくかっていうことを事務局を中心として前向きに検討をお願いしたいと思います。

今年度はこれで特別なことがない限り、閉会させていただいて、来年度に向けて、どのような形でより具体的に、皆さんのお知恵を守口市の創生に具体的に生かしていくかということについて、相談させていただきたいという

ふうに思います。

今回も総花的に広く薄くじゃなくて、ある程度議論をテーマをしぼって、そこを深く掘り下げた形で、一つ一つ具体化したらどうかというような御提案があったかと思います。これにつきましては、また事務局とも相談させていただくようにしまして、もう少ししぼった形で、よりやはり最終年度に向けて、ここがよくなりましたよとか、先ほども委員からいろんな市で同じようなことをやってるではないかというような意見もありましたけれども、守口の特色も生かしながら、一つでも成果があるような形で議論していくということを考えさせていただきたいと思います。

それで、来年度のスケジュールにつきまして、事務局から原案のようなものをいただいています。これについて事務局の説明をいただきたいと思います。

事務局説明をお願いいたします。

**○事務局** それでは、事前にお手元に配布させていただいております資料3「平成28年度守口市まち・ひと・しごと創生委員会スケジュール等について」という資料を御参照いただきたいと思います。

こちらにつきましては、今年度現在の先ほど委員長のお話がありました通り、2回目までの状況をまとめさせていただいたものでございます。ただし今おっしゃっていただいたような議論の中で申し上げますと、例えば来年度につきまして、特定のテーマをまずこの委員会の中で決定いただきまして、その地方創生に向けたテーマの中で、最終的に来年度一定の取組としての御提案をいただけるような形ということでございました。例えば今回ですと今年度2回開催させていただいております当委員会につきまして、回数、仮に昨年ですと4回開かせていただいております、皆さん御多忙の中とは存じ上げますけれども、例えば回数を4回にして、まず1回目にテーマをしぼる、2回目に関してはテーマについての調査研究を進めていくための取組、3回目にその意見交換、4回目には取りまとめというような形の案というものあるかと今思っておりますので、そういった形で今後皆さん、今年度につきましては2回での開催を予定させていただきますが、そういった案というのを今後皆様メールでもお送りさせていただきまして、御意見頂戴して、来年度に向けて進めさせていただきたいと思っております。

もう一点加えさせていただきますと、来年度実は皆様の任期につきましては、昨年8月26日に委嘱させていただきました、2年間というのが条例の中でございます。ただしこれは再任を妨げないというような形になっておりますので、現在は来年の平成29年8月25日までとはなるんですけども、年度途中というのもございますので、来年度につきましては、その任期を延長させていただきます、皆様には平成30年3月31日までできれば今回の委員としての任期をお願いしたいと考えております。またそれ以降につきましては市役所といたしまして、守口市として庁内でも検討させていただいて、委員の委嘱等については再度御連絡させていただきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

以上でございます。

○事務局 ありがとうございます。

今の事務局からの説明、提案につきまして何か御意見ございますでしょうか。特にございませんようでしたら、特に回数とか日程につきまして、恐縮ですけども、私と事務局で相談させていただいて、2回が適当か3回あるいは4回お願いするかということも含めて、原案をつくらせていただいて、場合によってはメールなどで諮らせていただきたいと思います。

できるだけ、せっかく皆さんお忙しいのに時間を割いていただいて議論を重ねてますので、何か実のあるものを残していけたらというふうに思っておりますので、ぜひよろしくお願いいたします。

最後になりますけども、本日の議事録につきまして恐縮ですが署名委員として、委員と委員にお願いできましたら幸いです。議事録つくりまして、次回に署名していただくという形になりますので、ぜひよろしくお願いいたします。

今日は本当にお忙しい中ありがとうございました。ぜひ今後もよろしくお願いいたします。

◇ 午後3時33分 散会

~~~~~